運命(さだめ)られし者

推奨の血統：なし
推奨の道：なし
消えざる絆：“占星卿”マイア（敬）

「あー。あれー？　変な場所。落ちて来たと思ったけど。この星は、こっちにあった方がいいかなー。あれ？　あれ？　空じゃないんだ。あー。ごめんね？　ちょっと持っててー。えーと、この星があーなって。こっちを……あ、まちがったかな……あっちを引っ張って来て……」

——“占星卿”マイア

貴卿が民であった頃。

小高い丘にいた貴卿がふと星空を見上げれば……空高くから、淡い星の光に包まれて、少女が落ちて来た。

落下はゆっくりとしていて、危険はなさそうだったが。

貴卿はとっさに、彼女を抱き留める。

甘い香り、美しい容姿は、騎士か異端か妖精か。

声をかけても答えはなく。

少女はただぼんやりと、貴卿を眺めながら……やがて、うわごとのような言葉が紡がれ始める。

地べたに置くわけにもいかず、彼女を抱えたまま。

しばらく、その言葉を聞いた。

人に聞かせる様子もない、独り言だったが。

一言呟(つぶや)くごと、貴卿の周りで世界が軋(きし)むように感じた。

そして、少女は何事もなかったかのように、貴卿の腕からぴょんと飛び跳ねて降りて。

呆気にとられた貴卿を置いて、ふらふらとどこかへ去ってしまう。妖精に出会ったのだとも、思ったが。

あの日から、貴卿には思わぬ運命が次々と訪れ。

気が付けば叙勲すら受け、騎士となっていた。

騎士となり、彼女を知った。あれこそは“占星卿”。

当代随一の星見。

出会う者の運命を変える存在だったのだ。今一度、彼女に出会う時……貴卿の運命もまた変わるだろう。

●特殊ルール

貴卿の過去は叙勲「61：英雄の予言」叙勲後「42：賢者の予言」となり、騎士歴は「3D6－3年」となる。

貴卿は【隠されし逸話】、†改変されし運命†を得る。

逸話

†改変されし運命†
Verschwiegen sei sei Schicksal! Sein Ruhm wird durch die Sternenlichter erleuchtet...

効果：貴卿は［栄光の目］によって「10」ではなく、「13」の出目を判定結果に加える。
彼の“占星卿”自らの手により、貴卿の運命は栄光で飾られた。その栄光は、他のいかなる英雄よりも眩く輝くのだ。

“占星卿”マイア・メイア・ライライテ・フォン・ダストハイム
Maia Meia Railaitē von Dustheim "die den Sternen folgt"

紋章概要：藍の地に広がる星空模様、上部“虚無”座の位置に紅い照月
性別：女性　**血統：**ダストハイム　**道：**星読
叙勲年齢：12歳　**騎士歴：**16年　**髪：**夜空の如く深き藍
瞳：魔性を感じる紫　**特徴：**華奢な体、甘い体臭

“占星卿”とは、星読の塔で最も優秀なる星読の称号。

当代において、その名を許されし者こそ、騎士歴僅(わず)か16年のマイア卿だ。

彼女こそ間違いなく当代随一……ともすれば史上最高の星読と言えよう。

星読は己の意識を星海へ同調させ、運命に干渉する。だが、彼女は肉体そのものすら同調させてしまう。常夜国から一時的に消え、自ら星空そのものと化し、星辰を操作する。多くの星読は、一度天そのものに同化すれば、決して戻れぬ。これは真祖回帰した騎士が、帰還するようなもの。驚くべき異能という他ない。

その名に加えられし「メイア」とは、騎士の常なる叙勲の主の名に非ず。生まれなかった彼女の双子の姉妹だという。ゆえに二つの魂を持てばこそ、斯様な異能が発言したのだろうか。事実、彼女は己を「マイア・メイア」と名乗る。

ともあれ、この異能ゆえ“占星卿”マイアは、ダストハイム随一の星読でありながら、星読の塔に縛(いずこ)られぬ。一度天に同化すれば、再び顕現する場所は星辰の指し示す場所のみ。何処とも指定できぬのだ。幸い、自らの運命を常に俯瞰(ふかん)するゆえか、彼女が危地に陥った例は聞かぬ。星辰に従い、彼女は常夜国中を彷徨(さまよ)う。

少なからぬ賢者が、彼女の監視役として常夜国を駆け廻っているのだとか。

民であれ騎士であれ異端であれ、彼女と出会えば、運命の変転が訪れよう。

その言動は、常に半ば星辰と同調し、浮世離れしている。己の意識すら曖昧なまま、半ば無意識に周囲の運命を書き換えていくのだ。常夜国には、彼女と出会って栄華を得た者、転落した者らが少なからずいるという。